

常滑市沖に2月17日、中部国際空港(セントレア)が開港する。同市瀬木町で「写真スタジオ和光」を経営する谷川和親さん(68)は、空港建設が始まった時から5年間、山の上から、船上から、そして島の中で、空港が出来上がるのを写し続けた。その成果が、写真集「セントレア、常滑から世界の空へ」(中日新聞社)に凝縮されている。撮影の苦労と空港への思いを聞いた。

【黒屋透、写真も】

——常滑焼の人間国宝、山田常山さんの写真集「常山の里」に次ぐ2冊目の作品集ですね。

常山さんは、1965年に初めて撮影して以来のお付き合い。謙な顔(「せす」に応じてくれました)。それに甘え、若造だった私はいろいろな角度から撮らせてもらい、力になった。恩人ですよ。写真集は人間国宝指定の88年に出しました。

——今度は空港に通い

中部国際空港の写真集を発売
谷川 和親さん

この人に聞きたい

ついでにどうですか。朝起きるとまよするの。どは私がちゃんと担当し撮った写真も、3回船に乗って満足ゆくものが撮れました。同じ場所に3回は行かないと、良い写真は撮れないものです。

——写真集の出来栄えはどうか。

——写真集の出来栄えはどうか。それはいい。何もない海面に出掛けられるようにならな。落ちる夕日は、山の上のかわい。公園に3回通ってよさやの。フェリーからの。4年半かけて、こ

結めます。

きっかけは、88年12月のジャンボジェット機の試験飛行です。撮影に行

「セントレアは最高の被写体」

き、本当にこんな海の上に空港が出来るのか、想像もできなかった。00年8月に埋め立て工事が始まり、いろいろな場所で写し始めましたが、最初は島の影すら見えない。

こんなどうい事やめようかとも思いましたが、飽きずに見ていると、1年後あたりからどうもく形が見え始めた。



たにがわ・かずちか 1936年常滑市出身。父のカメラをいじるうち写真のとりこに。常滑高商業科定時制在学中、第1回県高校写真コンクールで最優秀賞を獲得したのを機に写真の道に進み、大阪や奈良の写真館で修業。61年に独立開業。

4年半、2万カットから厳選 160カット